

交通網問題対策等調査特別委員会 会議記録

- 1 期 日 令和6年4月11日（木）
午前9時22分 開会
午前9時51分 閉会
- 2 場 所 第3委員会室
- 3 出席委員 委員長 太田 智博
副委員長 荒木 慎太郎
委員 芦田 竹彦、清水 寛、
須山 泰一、芹澤 正志、
松井 正志
- 4 欠席委員 なし
- 5 説明員 (別紙のとおり)
- 6 傍聴議員 なし
- 7 事務局職員 主事 菅谷祐一
- 8 会議に付した事件 (別紙のとおり)

交通網問題対策等調査特別委員長 太田 智博

交通網問題対策等調査特別委員会 次第

日 時：2024年4月11日(木) 9:30～

場 所：第1委員会室

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 自己紹介

正副委員長 → 各委員 → 当局 → 事務局

4 協議事項

(1) 委員会所管事項の事務概要について

【市長公室】 経営企画課

【都市整備部】 建設課、都市整備課

(2) 委員会の運営方針について

委員会重点調査事項

(3) その他

5 閉 会

交通網問題対策等調査特別委員会名簿

【委員】

2024年4月11日現在

職名	氏名
委員長	太田 智博
副委員長	荒木 慎太郎
委員	芦田 竹彦
委員	清水 寛
委員	須山 泰一
委員	芹澤 正志
委員	松井 正志

【当局】

職名	氏名	職名	氏名
市長公室長	谷口 雄彦	城崎振興局 地域振興課参事	橋本 郁夫
経営企画課長	真狩 直哉	竹野振興局 地域振興課参事	森口 佳徳
都市整備部長	富森 靖彦	日高振興局 地域振興課参事	上野 和則
建設課長	久田 涉	出石振興局 地域振興課参事	神谷 謙二
建設課参事	堀田 政司	但東振興局 地域振興課参事	大岸 勝也
都市整備課長	堂垣 俊裕		
都市整備課参事	武中 孝寛		

12名

【議会事務局】

職名	氏名
議会事務局主事	菅谷 祐一

交通網問題対策等調査特別委員会設置要綱

1 設置の目的

豊岡市の基幹交通網の整備をはじめ、市民生活の利便性等を高めるための公共交通機関の諸課題等について調査を行うため、地方自治法第109条及び豊岡市議会委員会条例第5条の規定に基づき、特別委員会を設置する。

2 委員会の名称

交通網問題対策等調査特別委員会

3 委員の定数

8名

4 付議事件

- (1) 北近畿豊岡自動車道、山陰近畿自動車道（鳥取豊岡宮津自動車道）、但馬空港及び鉄道に関する調査研究等
- (2) 路線バス等地域公共交通に関する調査研究等

5 委員会の設置期間

調査完了の時期まで

6 調査の経費

議会費の中で議長の定める額

7 その他

設置期間中、議会の閉会中も継続調査できるものとする。

交通網問題対策等調査特別委員会重点調査事項（案）

2024. 4. 11

1 高規格道路に関する事項

- 北近畿豊岡自動車道の事業推進に関する事
- 山陰近畿自動車道（鳥取豊岡宮津自動車道）の事業推進に関する事

2 但馬空港に関する事項

- 空港の利用促進並びに支援体制に関する事
- 東京直行便の実現に向けた事業推進に関する事

3 バス交通に関する事項

- 路線バス等公共交通の充実と利用促進に関する事
- スクールバスに関する事

4 鉄道交通に関する事項

- 鉄道交通の維持・存続並びに利用促進に関する事

5 新たな交通サービスに関する事項

- 自家用有償旅客運送等に関する事

午前9時22分開会

○委員長（太田 智博） 皆さん、おはようございます。

定刻よりかなり早い時間ではございますが、皆さんおそろいですので、ただいまから交通網問題対策等調査特別委員会を開会をしたいと思います。

委員長挨拶ということで、いよいよ気候も暖かくなっておりまして、桜もほとんど満開に近づいておるようでございます。もう既に花見等行かれてる方もいらっしゃると思いますが、コロナ禍でなかなか花見できなかった時期が続きましたが、コロナ禍が5類になって以降、初めての春ということでございますので、この季節に酔いながら、新委員会の下、これから約半年間、特別委員会を進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いを申し上げたいというふうに思います。

それでは、協議事項に入ります前に、今回は年度当初の委員会であり、4月1日付の人事異動で当局職員に異動がございましたので、ここで委員含めて、出席の皆さんに自己紹介をしていただきたいと思います。

まず、委員からですが、私は委員長の太田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

次、副委員長。

○委員（荒木慎太郎） 副委員長の荒木です。引き続きよろしくお願いいたします。

○委員長（太田 智博） 次に委員の方々。

○委員（芹澤 正志） 芹澤です。よろしくお願いいたします。

○委員（須山 泰一） どうも須山です。よろしくお願いいたします。

○委員（松井 正志） 松井です。よろしくお願いいたします。

○委員（清水 寛） 清水です。どうぞよろしくお願いいたします。

○委員（芦田 竹彦） 芦田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○委員長（太田 智博） 次に、市長公室、経営企画

課、都市整備部、建設課、都市整備課、各振興局地域振興課の順でお願いをしたいと思います。最後に事務局、お願いをしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○市長公室長（谷口 雄彦） おはようございます。

4月の組織再編に伴います所管業務の変更によりまして、今年度よりお世話になることになりました市長公室の谷口でございます。よろしくお願いいたします。

○経営企画課長（真狩 直哉） おはようございます。

経営企画課長兼ねて未来共創室長の真狩でございます。よろしくお願いいたします。

○都市整備部長（富森 靖彦） おはようございます。

この4月より都市整備部長ということでお世話になっております、富森です。この委員会は引き続きですので、よろしくお願いいたします。

○建設課長（久田 渉） 4月の異動で建設課長になりました久田です。引き続きよろしくお願いいたします。

○建設課参事（堀田 政司） おはようございます。建設課参事の堀田です。用地対策の担当をしております。よろしくお願いいたします。

○都市整備課長（堂垣 俊裕） おはようございます。

4月から都市整備課長となりました堂垣です。どうぞよろしくお願いいたします。

○都市整備課参事（武中 孝寛） おはようございます。

都市整備課参事、武中です。4月からもどうぞよろしくお願いいたします。

○城崎振興局地域振興課参事（橋本 郁夫） おはようございます。

城崎振興局地域振興課の橋本です。引き続きよろしくお願いいたします。

○竹野振興局地域振興課参事（森口 佳徳） おはようございます。

4月の人事異動で竹野振興局地域振興課参事を拝命しました森口です。どうぞよろしくお願いいたします。

○日高振興局地域振興課参事（上野 和則） おはようございます。

日高振興局地域振興課の参事の上野です。また引き続き今年度もよろしくお願いいたします。

○出石振興局地域振興課参事（神谷 謙二） おはよ

うございます。4月1日付の人事異動で出石振興局地域振興課参事を拝命いたしました神谷と申します。どうぞよろしくお願ひします。

○但東振興局地域振興課参事（大岸 勝也） おはようございます。4月1日から生まれ故郷、但東に帰ってきました大岸と申します。局長も大岸ですので、なかなか面倒くさいですけれども、よろしくお願ひいたします。

○事務局主事（菅谷 祐一） 議会事務局総務係の菅谷です。引き続きよろしくお願ひします。

○委員長（太田 智博） ありがとうございます。協議事項に入ります前に、連絡をさせていただきます。委員会の中の発言につきましては、必ず委員長の指名を受けてから、マイクを使用し、発言の最初に課名と名字をお願ひをしたいと思います。

それでは、協議事項に入ります。

まず、（1）委員会所管事項の事務概要についてを議題といたします。

委員の皆さんは、Side Books上のフォルダー、交通網問題対策等調査特別委員会2024.04.11の中に配信しておりますので、資料をご覧いただきたいというふうに思います。

それでは、経営企画課、建設課、都市整備課の順で説明をお願ひをしたいと思います。よろしくお願ひします。

真狩課長。

○経営企画課長（真狩 直哉） 3ページをお願いします。経営企画課の未来共創室分ということになります。市民の移動の在り方検討です。

昨年度までは都市整備課で所管していた内容ですが、未来共創室の設置に伴い所管を未来共創室へと移したものです。

現状と課題です。公共交通は不特定多数の人々の乗り合いを前提とするもので、利用の目的の異なる利用者が所定の運賃を支払えば自由に利用することができるというものです。しかしながら、人口減少、コロナ禍による行動変容などにより、現状の公共交通手段、交通体系では市民の移動の需要を支え切れなくなってきました。分野ごとの個別最適と

いうのも限界に達してきており、市として移動というものを大きく捉え、全体最適を図っていかないと市民の移動需要を支え切れなくなり、市民生活へ大きな影響を与えることが懸念されます。

基本方針です。持続可能な市民の移動需要を支えるための方策を庁内で検討します。

概要です。市民の移動の在り方について、庁内での検討会議を開催します。

説明は以上です。

○委員長（太田 智博） 久田課長。

○建設課長（久田 渉） 4ページを引き続きご覧ください。北近畿豊岡自動車道の事業促進、現況と課題、基本方針についてです。

当該道路は1987年6月に路線指定をされ、2020年11月には但馬空港ICまでが開通し、全体延長73キロのうち66キロが既に供用されております。2020年度には最終区間となる豊岡道路第Ⅱ期区間が事業化されたことにより全線事業化となりました。

今後も全線開通に向けた早期実現促進大会を継続開催するとともに、国や県などに当該道路の必要性をアピールすべく、要望活動も行っております。

次に概要についてです。1つ目の但馬空港ICから豊岡出石IC区間の豊岡道路につきましては、今年の秋の開通に向けて最終となるトンネル工事や舗装工事が行われる予定となっております。本市としまして、150万円の予算を計上して、開通式や祝賀会、開通記念イベントなどで盛り上げていきたいというふうに考えております。

2つ目の豊岡出石ICから豊岡北ジャンクション・ICの豊岡道路Ⅱ期につきましては、引き続き用地買収や橋梁の下部工など改良工事が行われることとなっております。

3つ目の早期実現促進大会につきましては、今年度につきましても8月の3日の土曜日に例年どおり1,000人規模で開催をし、但馬の思いを強く訴えていきたいと考えているところです。

最後の要望活動についてですが、こちらにつきましても、引き続き国や財務省、近畿地方整備局に対

しまして、当該道路の必要性を強くアピールするなど、積極的な要望活動を展開したいと考えているところです。

次ページに北近畿豊岡自動車道と山陰近畿自動車道の図面をつけております。参考にごご覧ください。次に、6ページをご覧ください。山陰近畿自動車道の事業促進についてです。

当該道路につきましては、1994年12月に地域高規格道路として路線指定を受け、兵庫県内については、香住道路、東浜居組道路、余部道路、それから、浜坂道路が開通し、県内の延長では51キロ中23キロが供用されております。豊岡市域では竹野道路が2021年度に事業化され、現在測量や調査、設計が進められております。加えて、城崎道路が2023年度に国の直轄権限代行にて新規事業化されたところです。こちらにつきましても、北近畿豊岡自動車道同様に、引き続き全線開通に向けた早期実現大会を継続開催するとともに、この道路の必要性をアピールするとともに、要望活動と併せてやっていき、より一層積極的に活動を展開したいと考えております。

次に、概要についてです。1つ目の浜坂道路Ⅱ期につきましては、トンネル工事や橋梁の上下部工、2つ目の竹野道路では調査、設計、用地買収、3つ目の城崎道路では、調査、設計を予定しております。なお、この竹野道路につきましては、北近畿豊岡自動車道同様、本市としましては、100万円の予算を確保しており、起工式をする予定でございます。

5つ目と6つ目の要望活動につきましては、北近畿豊岡自動車道同様なので省略させていただきます。

最後に7つ目の山陰近畿自動車道整備推進決起大会につきましては、兵庫県と鳥取、それから京都府の3府県により、東京で毎年11月に開催をしている大会になっております。今年度につきましても事務局として参加を予定しているところです。

説明は以上です。

○委員長（太田 智博） 堂垣都市整備課長。

○都市整備課長（堂垣 俊裕） 都市整備課からは3

件、事務概要を説明させていただきます。

7ページをご覧ください。空港の利用促進と利便性の向上です。

まず、現況と課題、それから、基本方針についてです。コウノトリ但馬空港は1994年の開港以来、豊岡市をはじめ、但馬地域の活性化に大きく寄与してきており、5月18日には開港30周年を迎えます。2023年度の利用者は3月31日現在の速報値で対前年度9,116人増の3万8,732人となり、利用者数、東京乗り継ぎ利用者数ともにコロナ禍前と同程度の水準にまで回復してきています。

今年度も引き続き利用拡大を図りつつ、但馬と首都圏を結ぶ東京直行便の開設に向けた取組と但馬ー伊丹線の年間目標利用率を70%とするプロジェクト「ターゲット70」を継続して積極的に取り組むこととしています。

次に、概要です。主な取組の1点目につきましては、市民等に対する但馬路線空港運賃の助成や小学生の社会見学への支援を通じ、但馬空港の利用を促進します。

2点目としまして、但馬空港開港30周年記念事業として、市内に在学する児童、学生を対象とした但馬ー伊丹線無料キャンペーンを実施するとともに、大阪・関西万博に向けた取組も実施します。

3点目としましては、県、但馬空港推進協議会と市が連携し、東京直行便開設に向けた日本航空株式会社及び日本エアコミューター株式会社への要望を7月をめどに予定しています。

4点目につきましては、記載のとおりです。

次に、8ページをご覧ください。バス交通の充実と利用促進です。

現況と課題、基本方針についてです。地域公共交通の基盤であるバス交通については、自家用車の普及や域内人口の減少による利用者数の減少、加えて、深刻なドライバー不足により大変厳しい運営状況にあります。今年度も継続して、国、県と協調し、運行に係る経費の補助を行い、主要バス路線の維持確保に努めたいと考えております。

また、路線代替交通として運行しています市営バ

ス「イナカー」については6路線で継続運行を行い、沿線住民の外出を支援したいと考えております。地域主体交通のチクタクにつきましても、今年度も引き続き出石、但東の4つの地域で継続運行し、交通弱者の日常生活を支えたいと考えております。

今後も引き続き地域の実情に応じた新たな交通モードの検討を進め、持続可能なバス交通ネットワークの構築を目指すこととしています。

次に、概要です。主な取組についてですが、まず、1点目の主要バス路線の維持については、先ほど現況で説明したとおりです。

2点目の地域の実情に応じた交通体系とネットワークの構築については、昨年度に引き続き竹野南地区の乗合運送サービス、のりあい・みなみの実証運行業務を行うとともに、交通体系の見直しにも取り組めます。

3点目は記載のとおりです。

4点目として、公共交通の市民の関心を高め、利用者の維持、増加を図ることを目的に全但バス株式会社の協力の下行ってきたノーマイカーデーを昨年度に引き続き第2水曜日と第4金曜日の毎月2回の利用促進に加え、職員の市内移動等に係る公共交通利用にも取り組むこととしています。

次に、9ページをご覧ください。鉄道交通の利用促進です。

現況と課題、基本方針について、通勤、通学、通院など、市民の日常生活など、交流人口の拡大や災害時のリダンダンシー機能の確保という観点から、鉄道交通は必要不可欠な重要な社会基盤であると考えています。しかしながら、自家用車の普及や沿線人口の減少等による利用者は年々減少傾向にあり、鉄道交通を取り巻く環境は厳しさを増しています。このような状況の中、JR西日本は大量輸送機関として鉄道の特性を發揮できていないとする線区の輸送密度と経営状況を公表し、最適な地域交通体系を共に作り上げていく必要があるとの課題を提起しました。県と沿線自治体は路線ごとに現状と課題を踏まえ、利用促進策の方向性を取りまとめ、関係者がそれぞれの立場で利用促進策に取り組ん

でいます。

また、京都丹後鉄道では、維持活性化を推進するため、2015年4月から運行部門と施設部門を異なる主体が担う上下分離方式が導入され、沿線府県市町が連携し、持続可能な運営に努めています。なお、上下分離方式による現契約が2024年度末に満了を迎えるに当たり、今年度中に延長契約を締結することとしています。

引き続き沿線自治体と連携し、利用者の利便性向上対策と運行事業者への支援を行うこととしています。

次に、概要です。主な取組についてですが、まず、大項目1のJR山陰本線の維持存続に向けた取組の実施につきましては、JR山陰本線利用促進策創出ワークショップで立案された取組として、乗って守ろう！竹野駅ペイを昨年に引き続き実施するとともに、トライやる・ウィークにおける公共交通利用助成にも取り組んでいきます。

次に、大項目2の京都丹後鉄道の運行支援につきましては、例年の取組であり記載のとおりです。

都市整備課からの説明は以上です。

○委員長（太田 智博） 説明は終わりました。

質疑、意見等はございませんでしょうか。

清水委員。

○委員（清水 寛） ちょっと1点、お尋ねします。

都市整備課のほうなんですけども、鉄道の利用、バスの利用っていう部分でいえば、先ほどもノーマイカーデーの話があったんですけども、やはり職員の利用をしっかりと伸ばしていくっていうのも一つかなと思う、日々のことっていうこともありますから、そういう意味で、職員向けに何かそういうアプローチといいますか、されてるっていうようなことっていうのはあるんでしょうか。

○委員長（太田 智博） 堂垣課長。

○都市整備課長（堂垣 俊裕） 職員向けに特別に何かっていうことはしてないんですけども、ノーマイカーデーを実施する前には掲示板等で職員にはお知らせするようにはしております。

○委員長（太田 智博） 清水委員。

○委員（清水 寛） やはり皆さん個々で頑張っ
て利用してねっというだけでは、なかなか利用が伸び
ないかなと思います。車をそもそも使わないという、
車の便利さに慣れてるんで、なかなかそういう意味
では歩みが難しいのかなと思います。そこが職員の
ほうの何ていうんですかね、通勤手当とか、そうい
う部分でどの程度ケアされてるのかってというのは、
ちょっと存じ上げないんですけども、やはりそうい
う部分も少しでも手厚くしていくようなことを、取
組としてやっぱり全庁としてそういうことを進め
ていく必要があるかなと思いますので、ぜひそうい
ったことも検討していただけたらと思います。以上
です。

○委員長（太田 智博） よろしいですか。

○委員（清水 寛） 何かあれば。

○委員長（太田 智博） 堂垣課長。

○都市整備課長（堂垣 俊裕） 職員の通勤手当につ
きましては、バスの定期代というのは全額出して
いただけるということにはなっております。

○委員長（太田 智博） ほかがございませんか。
須山委員。

○委員（須山 泰一） そしたらですね、一番最初の
市長公室、未来共創、経営企画課で説明されたこと
ですけど、まず、この文章が事務概要には今までな
かったとこだと思うんですけど、分からない言葉で、
個別最適とか全体最適とかいうあたりちょっと教
えてほしいのと、庁内で今後検討会議を移動の在り
方についてやっていくということですが、これはど
ういった方が対象で、どれぐらいの頻度で行われる
のか、その辺り教えてください。

○委員長（太田 智博） 谷口室長。

○市長公室長（谷口 雄彦） これまでは、例えばで
すね、学校教育課がスクールバスはどうあるべきか
という、スクールバスという範疇の中で最も最適な
在り方はどうなんだっということを考えています。
福祉は福祉輸送の中で、福祉輸送という範疇で何が
最も最適かということを考えてきたんですけども、
そういう個別で最適を考えていても、全体としては
最適になってないんじゃないかという課題感があ

って、市役所全体の全体最適を考えるべきだとい
うような考え方です。

在り方検討会っていうのは、去年2回、都市整備
課の所管でやりました。今、申し上げたとおり、公
共交通を担う都市整備課と、それからスクールバス
を担当する学校教育課、それから福祉輸送の関係の
健康福祉部の担当課とやってきましたけれども、こ
の業務がなかなか前に進まなかったっていう反省
もあって、じゃあどういふうに進めていってか
ってということで、組織改編に合わせて我々が所管す
るようになったということで、施策に関しては変わ
っておりません。

○委員長（太田 智博） 須山委員。

○委員（須山 泰一） これは、例えば僕たちが出
れるのかどうかとか、あと3月の議会で澤田部長が、
バスに関しては路線廃止も含めて、大幅改革を検
討しないとイケないって答えられていらっしやる、
この話は、移動の在り方ということは公共交通全
てについてでしょうか。

○市長公室長（谷口 雄彦） 当然、路線バスその
ものについては、これまでどおり都市整備課が所
管をしますけれども、それが市全体としてどうな
んだっというような視点から検討が必要ですし、
ほかのサービスとの整理っていうこともあります
ので、そういった部分で経営企画課が関わって
いければというふうに考えております。

在り方検討会につきましては、去年までは非公開
というか、市役所内部の会議ということでやって
きてまして、今後どういふうに市民の皆さんの
意見を聞いたりっていうようなことは、また別
途検討していく必要があるんじゃないかという
ふうには思っています。

○委員長（太田 智博） 須山委員。

○委員（須山 泰一） そしたら、じゃあバスの
ほうですけど、バスのほうは全但バスがこの春
からたしか94便減便と報道されてました。豊岡
ではどれぐらいになるのかとか、それから、先
ほど言ったバスの廃線とかになったら、どうい
うところが対象として考えられているか、その
辺り、今答えられる範囲で

どうでしょう。

- 委員長(太田 智博) 豊岡の減便数みたいな感じ。
- 委員(須山 泰一) そうですね。取りあえず、94は多分全部じゃないですか。難しいか。
- 委員長(太田 智博) 豊岡も経由するし、養父も経由するし。
- 委員(須山 泰一) そうやな。でも、ほんなら94、ほとんどが影響するということかな。
- 委員長(太田 智博) 豊岡に来てしまえばな。
- 委員(須山 泰一) いいんですかね。
- 委員長(太田 智博) 堂垣課長。
- 都市整備課長(堂垣 俊裕) 今、豊岡だけの減便数が手元に資料がないので、ちょっと後ほど出させてもらいたいと。

路線の廃止については、それは現時点でどこを廃止するっていうことは、ちょっと決まっていませんし、利用が少ないところだとか、ほかの代替交通でできるところっていうのは、今後検討していったらいいのかなというふうに思っております。

- 委員(須山 泰一) いいですか。
- 委員長(太田 智博) 須山委員。
- 委員(須山 泰一) 何遍もすみませんね。

たしか12月に地域公共交通会議というのがあって傍聴させてもらって、そこで、確かに全但バスが春からの減便たくさんあるというようなことで、資料も出されてました。傍聴だったんで細かいこと分からないところもあるんですけど、豊岡に関わるところは、そこで出されたところだけなんかと、それが傍聴されてた方とない方とあるんで、資料持ってる人、持ってない人あると思うんですけど、そのときは確かにどの便が減らすかっていうような資料は頂きました。それだけなんか、さらに加えられるんか、そういうのがちょっと僕としては気になっていました。

あと状況が少ないところは、路線も廃止を検討するって言われているのが非常に、今後免許を返納しようとか考えてる人にとっては、ちょっと怖いところの話だというふうに言われております。現在でも、もう本当は返納したいけど、バスっていうか公共交

通もないんで、車を維持するにもお金がかかるし、車検も来るしと、そんな方もあります。廃線というのは、うちは日高の三方地域はもう15年も前に廃線になってまして、バスに頼らないムードになっている地域ですけども、イナカーに替わったってこれは土日はもう走らないし、毎日3往復ぐらいなんで、できる限りやっぱり路線は何とか維持してほしいと思ってんです。具体的にそういうところに対して、赤字路線に対しては国が半分は補助するんじゃないかというような話をされる方もあって、豊岡もそういうお金は入ってるんですよ。だと思っただけですけど。こちらとしては……。

- 委員長(太田 智博) もう少し簡潔に。
- 委員(須山 泰一) はい。取りあえず、そういうお金入ってますかね、国や県から。赤字路線については。
- 委員長(太田 智博) 堂垣課長。
- 都市整備課長(堂垣 俊裕) 路線によって、国の補助が当たる分と県の補助の当たる分と、そうじゃない分と、路線によってちょっと違ってはいますが、国の補助が当たってる路線もあります。
- 委員長(太田 智博) よろしいですか。
- 委員(須山 泰一) 取りあえず止めときます。
- 委員長(太田 智博) ほかがございませんでしょうか。

ほかないようですので、以上で委員会所管事項の事務概要については終わりますが、この際、当局側から何か発言等ありますでしょうか。ありませんか。ないようですので、当局の職員の方は退席をしていただいて結構です。ご苦労さまでした。暫時休憩します。

午前9時49分休憩

午前9時50分再開

- 委員長(太田 智博) 委員会を再開します。次に、(2)委員会の運営方針についてであります。前回までの委員会で決定しました委員会重点調査事項を、Side Books上の本日のフォルダ

一の次第等の資料4ページに配信しております。改めて、今期の委員会重点調査事項について協議をお願いをしたいと思います。この件については意見ございますでしょうか。

特に意見がないようですので、当委員会の重点調査事項は現行のとおりとし、変更しないことにしたいと思います。異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（太田 智博） 異議がないようですので、そのように決定いたしました。

次に、（3）その他についてでございます。

この際、何か発言等ございませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（太田 智博） ないようですので、以上をもちまして委員会を閉会いたします。お疲れさまでした。

午前9時51分閉会
